

TAMA市民塾・日曜講座のお知らせ

第116回 やってみませんかマジック(手品)

【講師】^{たかはし まさき}高橋 正樹 氏

(公社)日本奇術協会賛助会員。都内各所で『手品の学校』を主宰し、主にシニアを対象に、マジックの指導歴25年。多くの生徒が、マジックを生かして、各種施設訪問等のボランティアで活躍している。内田康夫ミステリー文学賞・大賞を受賞したミステリー作家でもある。

【内容】マジックは夢とロマン、優しさと遊び心に満ちた、たいへん素敵な趣味・芸能です。見ていただけでも楽しいですが、演じる側に回れば、さらに愉快なものです。

今回は初心者を対象に、トランプ・お札・紙・ひも等を使った、易しくできて効果的なマジックをお教えます。器用・不器用などといったことは全く関係なく、その場で覚えて数回練習すれば、すぐにでも人をびっくりさせられるものばかりです。

覚えたその日から新たな楽しみ・喜びの広がるマジックの世界。あなたも魔法世界の住人になってみませんか。



日時 平成31年1月20日(日) 14:00~16:00
場所 多摩交流センター会議室 京王線府中駅北口
府中駅北第2庁舎6F(府中市寿町1-5-1)

受講料 無料
問合せ先 多摩交流センター内 TAMA市民塾
TEL 042-335-0111

申込方法 当日会場にお越しください。先着50名までとさせていただきます。

広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介

払沢(ほっさわ)の滝冬まつり

実施月 平成31年1月~3月

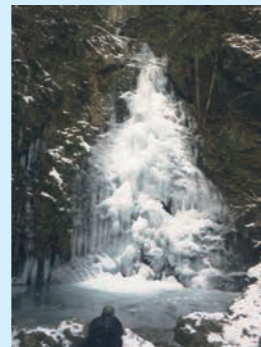
場所 檜原村 払沢の滝周辺

内容 東京都で唯一日本の滝百選に選ばれており、冬には氷瀑となる「払沢の滝」。冬の檜原村の魅力を多くの人に知ってもらうために、1月~2月に払沢の滝の最大結氷日を当てる氷瀑クイズ(クイズの応募締切は12月末日)とフォトコンテストの作品募集を実施します。3月に払沢の滝周辺の店舗等で応募作品を展示し、投票により最優秀賞等を決定します。2月3日(日)には、檜原村の特産品などを集めた「ほっこり市」も開催します。ほっこり市には檜原村公認ゆるキャラ「ひのじゃがくん」も来るかも!?

主催 払沢の滝冬まつり実行委員会

問合せ (社)檜原村観光協会内 払沢の滝冬まつり実行委員会事務局
TEL 042-598-0069

Facebook <https://www.facebook.com/hinoharahossawa/>



「多摩交流センターだより」の問合せ先

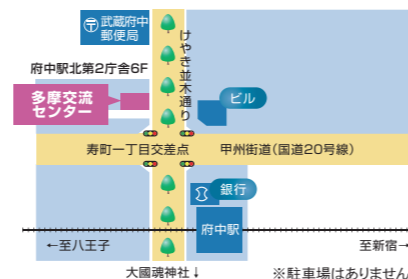
(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6F

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



ちょっと一息

色々な市町村のシンボルマーク(パート1)
~市町村章ひらがな編~

市町村章は各市町村のシンボルマークで、市町村の風土、歴史、文化などを表現しているんだ。39市町村それぞれに市町村章があって色々なデザインがあるんだけど、今月号でちょっとだけ紹介するね。

表紙で紹介した調布市は「ちょうふ」の「ち」をモチーフにしているんだ。今回は調布市とその近隣市でひらがなをモチーフとしている市町村章を紹介するよ。



調布市



調布(ちょうふ)の「ち」を図案化。市民の協和と無限に伸展する市勢を象徴。

府中市



府中(ふちゅう)の「ふ」と「中」を組み合わせ図案化。市民相互のまどかな結びつきを表現。中央には、多摩川の清流をかたどり、市の将来の永遠なる発展を象徴。

狛江市



狛江(こまえ)の「こ」を図案化。中央の白い部分の流線は多摩川の流れを表現。

稲城市



稲城(いなぎ)の「い」を図案化。円満な市政と将来に向かっての限りない発展を象徴。



- 今年も残すところ後1ヶ月。この1年を振り返るといろいろ出来事がありました。
- まず、多摩・島しょ地域に関する出来事として、町田市、小金井市がそれぞれ市政施行60周年を迎えました。また、5月には、「東京愛らんどフェア『島じまん2018』」が竹芝橋で開催され、2日間で約11万人が来場し、島の魅力を満喫しました。そして、6月には、小笠原諸島が米国から返還されて50周年目を迎え、記念式典が行われました。
- 次に、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、スポーツの分野では、日本人選手の目覚ましい活躍が見られました。8月にジャカルタで開催されたアジア競技大会では、競泳の池江璃花子選手が日本選手最多となる6個の金メダルを獲得しました。翌9月には、大坂なおみ選手が全米オープンテニスの女子シングルスでセレーナ・ウィリアムズ選手を破り、日本人として初めて四大大会シングルの優勝者となりました。また、11月には、アメリカ大リーグのエンゼルスに所属し投打の二刀流で活躍している大谷翔平選手がアメリカン・リーグの新人王に選ばれました。
- 今年は、このような輝かしい話題が多くあった一方、日本各地で自然災害による被害が多発した年でもありました。

東京では、1月に都心で20センチを超える積雪があり、7月には青梅市で都内観測史上初めて気温が40度を超えるなど、人々の暮らしや健康面に大きな影響を与えました。また、西日本では、活発化した梅雨前線等の影響により降り続いた大雨が、河川の氾濫、土砂崩れなど各地に多くの被害をもたらしました。

その後にも、北海道胆振東部地震や台風24号が、大規模な土砂崩れや倒木等甚大な被害をもたらしました。

○ 異常気象の多発の原因には地球温暖化の影響があるとされていますが、地域に暮らす人々が安心・安全に暮らせるようにするためには、CO2の削減など温暖化を抑制するだけでなく、地域の特性に応じた柔軟な対応を自治体単位で取り組むということも大切になってきます。

○ 当調査会は、これまでも時代の変化や新しい動きの中で各自自治体が置かれている状況等を踏まえ、様々な調査研究活動やオール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」などに取り組んできています。

来年も、同プロジェクトの今年度からの新規事業である「気候変動への適応策に関する調査研究」など、さまざまな事業を通じて、都内市町村の活動を支援し、発展に向け、努めてまいります。

(S.K)